

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：16101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K19675

研究課題名（和文）育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の開発

研究課題名（英文）Development and Psychometric Testing of the Mental Health Scale for Childrearing Fathers

研究代表者

近藤 彩（KONDOU, Aya）

徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・助教

研究者番号：20721921

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、「育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度（MSCF）」の開発を行い、その信頼性・妥当性の検討を行うことである。尺度開発の手順に則り、調査を実施した結果、MSCFは【家庭における心の安寧】、【心身の健康感】、【父親として感じる満足】、【父親としての有意義な生き方】の4因子25項目で構成された。クロンバック係数は0.918であり、信頼性が確認できた。妥当性は、探索的因子分析により構成概念妥当性を確認できた。併存妥当性は、既存尺度と相関が認められた。確認的因子分析によるモデル適合度は統計学的許容水準を概ね満たしていた。MSCFは乳幼児健康診査等での使用が期待できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度（MSCF）」の開発により、父親の心理的健康のスクリーニングが可能となり、育児に伴う不安や抑うつ傾向の早期発見・予防に繋がる。看護者にとっては、父親のワークライフバランスの実現に向けての助言・指導に活用できる。ひいては、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けたサポートシステムの構築に繋がると考える。

研究成果の概要（英文）：This study developed a Mental Health Scale for Childrearing Fathers (MSCF) and determined its reliability and validity. The MSCF consisted of 25 items comprising four factors: peaceful familial connection, healthy mind and body, satisfying paternal alliances, and leading a meaningful life as a parent. The internal consistency reliability estimated using Cronbach's alpha coefficient for the total scale was 0.918. The validity of the MSCF was logically secured using a confirmatory factor analysis. The MSCF can be an effective tool for mental health screening among fathers in relation to the burden of childrearing during regular infant health checks.

研究分野：助産学

キーワード：メンタルヘルス 父親 育児

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、父親の育児参加が推進されるようになり、育児に積極的に取り組む男性は増加傾向にある。この父親の育児参加の現状は、2016年の社会生活基本調査によると、男性の家事関連時間1時間23分のうち育児時間が49分と諸外国に比して短く、2016年の雇用均等基本調査における女性の育児休業取得率が81.8%であるのに対して、男性の育児休業取得率は3.16%と低く、男性が仕事と育児の両立に困難な状況であることが推察される。このような状況を改善するために、2010年には「イクメンプロジェクト」が発足し、「健やか親子21(第一次)」では「育児に参加する父親の割合を増加傾向へ」という目標を掲げて男性の育児への取組みを推進してきた。しかし、健やか親子21の最終報告では、『今後10年の間に育児疲れや育児不安に陥る父親が増えてくる可能性がある』と報告している。

そこで、健やか親子21の最終報告で懸念されている「育児疲れ」や「育児不安」に陥る父親が増加することのないよう、父親のメンタルヘルスを考慮した育児支援を早急に検討する必要があるため、『育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度』(Mental Health Scale for Childrearing Fathers: MSCF)を開発し、その信頼性・妥当性の検証を行う。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、「育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の開発」を行い、その信頼性・妥当性の検証を行うことである。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の3つのプロセスにより「育児をするメンタルヘルス測定尺度」を開発した。  
(1)既存尺度・先行研究・予備調査から試作尺度を作成、(2)プレテストによる尺度項目の精選、  
(3)本調査による信頼性と妥当性の検証

### 4. 研究成果

#### (1) 既存尺度・先行研究・予備調査から試作尺度を作成

既存尺度・先行研究・予備調査から、父親のメンタルヘルスに影響している要因、父親の属性や家族との関係性、社会的関係性の変化などの要因を検討し、7つの概念から成る135項目の試作尺度を作成した。専門家・エキスパート5名による内容妥当性の検討、育児をしている父親12名による表面妥当性の検討を行い、最終的に117項目から成る育児をする父親のメンタルヘルス測定試作尺度を作成した。

#### (2) プレテストによる尺度項目の精選

117項目から成る育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度を用いて、小学校就学前までの子どもを持つ父親150名を対象にプレテストを実施した。98例のデータが収集され、項目分析、因子分析による構成概念妥当性の検討、信頼性係数の算出による内的整合性の検討を行った。4因子32項目から成るMSCF原案を作成した。

#### (3) 本調査による信頼性と妥当性の検証

MSCF原案を用いて、小学校就学前までの子どもを持つ父親568名を対象に本調査を実施した。306例のデータが収集された。

#### 結果

対象者の平均年齢は37.5(SD5.9)歳、正社員は83.7%、平均仕事時間は9.3(SD1.5)時間であった。尺度作成の手順に沿って、項目分析、探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転法)、信頼性係数を算出した。結果、4因子25項目が抽出され、第1因子は「家庭における心の安寧(=0.890)」、第2因子は「心身の健康感(=0.897)」、第3因子は「父親として感じる満足(=0.815)」、第4因子は「父親としての有意義な生き方(=0.792)」と命名できた。25項目全体における係数は0.918であり、構成概念妥当性、内的整合性が確認できた。

既存尺度(夫婦関係満足度尺度QMI、ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版、CES-D、日本語版GHQ12、日本語版WHO The Subjective Well-Being Inventory SUBI)を用いて併存妥当性の検討を行い、本尺度とSUBIの心の健康度とは強い相関( $r=0.72$ ,  $p<0.01$ )が認められ、日本語版GHQ12とは強い負の相関( $r=-0.79$ ,  $p<0.01$ )が認められた(表1)。

表1 既存尺度との相関による併存妥当性の検討

	25 項目	第1因子 家庭における 心の安寧	第2因子 心身の健康感	第3因子 父親として 感じる満足	第4因子 父親としての有意義な 生き方
QMI	0.57**	0.71**	0.31**	0.23	0.52**
ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版	0.64**	0.34**	0.58**	0.42**	0.58**
CES-D 日本語版	-0.65**	-0.31**	-0.71**	-0.32**	-0.58**
GHQ12	-0.79**	-0.64**	-0.67**	-0.39**	-0.65**
SUBI					
心の健康度	0.72**	0.61**	0.49**	0.43**	0.74**
心の疲労度	0.55**	0.31**	0.65**	0.29**	0.36**

確認的因子分析によるモデル適合では、GFI=0.828、AGFI=0.792、CFI=0.873、RMSEA=0.078 であり、統計学的許容水準を概ね満たしていた。

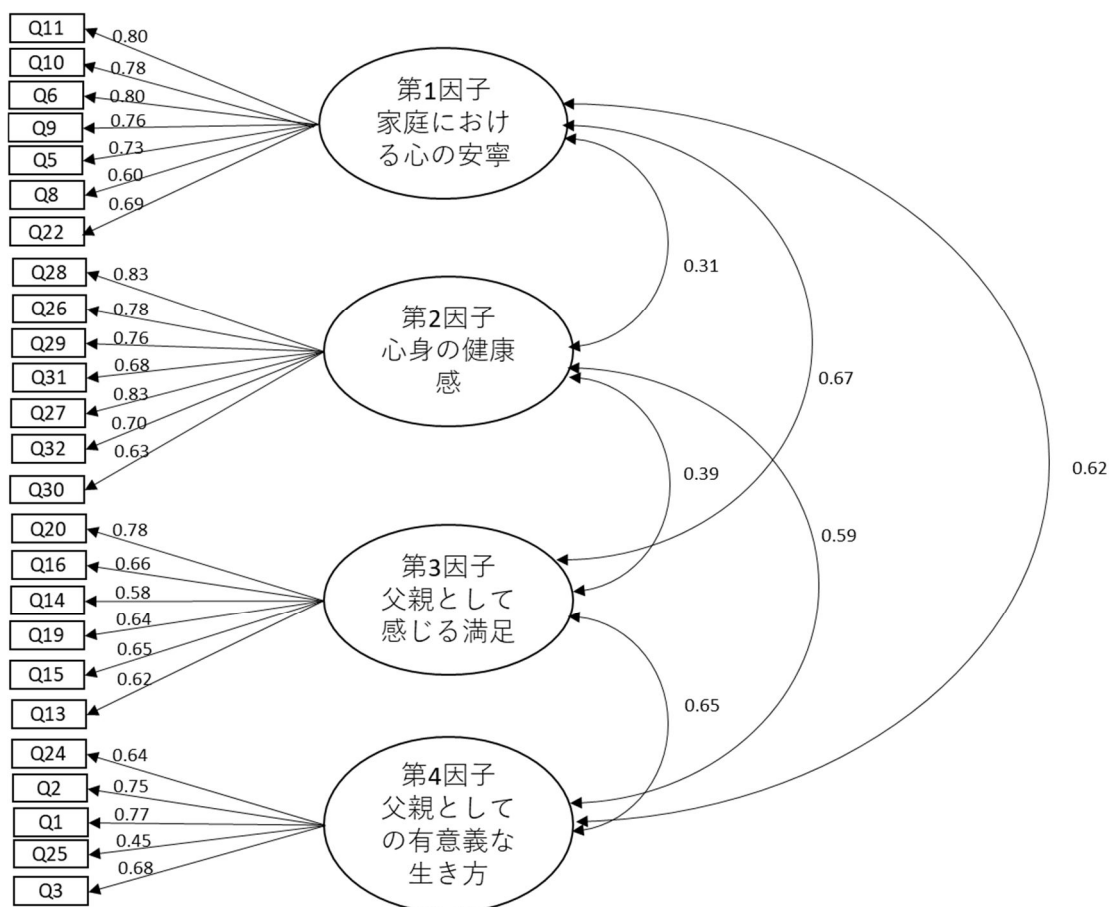


図1 育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度(MSCF)の確認的因子分析

MSCFは、父親の生活全般を捉えたうえで父親のメンタルヘルスを測定するという特徴があり、育児に関連する父親のメンタルヘルスの状態をスクリーニングすることができる。10分程度で回答できる実用性が高い尺度であるため、乳幼児健康診査等での使用が期待でき、面接等を併用することでより多面的かつ総合的にアセスメントすることが可能になる。今後は、MSCFのカットオフ値の設定に向けた調査に取り組む。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kondou Aya, Haku Mari, Yasui Toshiyuki	4. 巻 9
2. 論文標題 Development and Psychometric Testing of the Mental Health Scale for Childrearing Fathers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Healthcare	6. 最初と最後の頁 1587 ~ 1587
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/healthcare9111587	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------